



おふろやさん

西村 繁男 作

福音館書店 1977年 840円

32ページ 27×20cm

“あっちゃんは、お父さん、お母さん、赤ちゃんと一緒におふろやさんに出掛けました。”絵本に書いてある文章はこれだけです。おふろやさんに着いてからの様子は、絵を見て想像してみましょう。あっちゃんは、お友だちと石鹸でぶくぶく泡を作ったり、おもちゃをお湯に浮かべたりして遊んでいます。はしゃぎすぎて、おじいさんに叱られてしまった男の子もいます。ほかにはどのような人がいて、どのような会話をしているのでしょうか。人々の動作や表情、おふろやさんのつくりが細かく生き生きと描かれていますので、視点を変えて何通りにも楽しむことができます。また、現在は少なくなった銭湯の様子を知るうえでも貴重な絵本です。



おまたせクッキー

パット・ハッチンス さく 乾 侑美子 やく

偕成社 1987年 1260円

24ページ 21×26cm

お母さんがクッキーを焼きました。おばあちゃんが焼いたクッキーみたいにおいしそうです。ピクトリアとサムが6つずつ数えて分けたその時、玄関のベルが鳴り、お隣のトムとハナがやってきました。その後も、クッキーを食べようとするたびに玄関のベルが鳴り、クッキーを分ける人数がふえていきます。とうとう、クッキーがひとり1つずつになってしまったところで、また、ピンポン！

リズムカルな繰り返しと子どもたちの表情が楽しい絵本です。減っていく戸棚のお皿や、増えていく床の足跡などの細かい描写も効果的で、私たちもドキドキしながらドアを見つめてしまいます。

